ダンスと社会を結ぶネットワーク型NPO
Japan Contemporary Dance Network

令和６年度　事業報告書

特定非営利活動法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク

2024 年度を振り返って

今年も大変お世話になりました。
今年度も盛りだくさんの事業を行いました。

まずは「コンテンポラリーダンス新進振付家育成事業」。「KYOTO CHOREOGRAPHY AWARD」「Choreographers」「ダンスでいこう！！」の 3 つのプログラムを、京都、札幌、新潟、山代温泉（石川）、松山、長野、北九州の 7 地域で行いました。同じ地域で開催を重ねることによって、その地の制作者や若手の振付家との関係性が広がり、深まっていきます。各地が若手振付家の発信拠点となり、全国に広がっていくことを感じます。

今回の報告書では、前年度まで以上に参加振付家、観客、各地の共催者の声を出来るだけ掲載しています。一つ一つの言葉が、この事業の成果だと思います。例えば参加振付家の声も、本当にそれぞれの感想や意見があり、“育成”とひとことで言っても、いろんな側面があることを改めて発見します。
ボリュームがありますが、是非読んでみてください。

「三陸国際芸術祭」も今年で 11 年目を迎えました。三陸の芸能を国内外に発信するというところから始まり、現在は若手芸能者のためのプログラムや、三陸に海外からの旅行客を招くための仕掛けなど、地域の課題にも取り組むようになってきています。多くの方の協力で、継続しているからこそ生まれてくる責任と役割を感じています。

「こちかぜキッズダンス」も 11 年目を迎え、新しいフレーズに入ってきています。
「学校へのダンスアーティストの派遣事業」今年も、沖縄、大阪・堺市、滋賀の 3 地域、11 校にて実施しました。

JCDN は、1998 年より設立準備室、2001 年法人設立です。2025 年で、25 年目を迎えます。
会員のみなさまに支えられて、活動を続けていけていることに、心より感謝します。
何卒、引き続きよろしくおい願いいたします。

2025 年 6 月 18 日
NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク
佐東範一

目次

I. 事　業　部　門

1．国内のダンスアーティストの育成と創造環境作り　――――― p. 3

・「コンテンポラリーダンス新進振付家育成事業 2024」
Ⅰ　新進気鋭の振付家が世界に羽ばたくためのアワード：
「KYOTO CHOREOGRAPHY AWARD 2024」
Ⅱ 全国の劇場とのネットワークによる再演プラットフォーム：
「Choreographers 2024」 札幌・新潟公演　――――― p. 7
Ⅲ　振付家を目指す若手を対象とした各地のプログラム：
「ダンスでいこう！！2024」
札幌、信州、山代温泉（石川）、松山（愛媛）、北九州、オンライントーク―― p.11

2．文化芸術による被災地の復興支援　――――― p.26

・三陸国際芸術推進事業 2024
1 三陸芸能大発見サミット（三陸芸能見本市（ショーケース）事業）
Ⅱ　三陸オオツチ未来芸能祭・オオツチ祭生（さいせい）ミーティング
Ⅲ　三陸芸能祭ＬＩＮＫ　（三陸芸能催事の磨き上げ・観光誘発事業）

3．「すべての人がダンスと出合う」機会を作る、コミュニティダンス―― p.28

・「こちかぜ（東風）キッズダンス
―東山区発の、ダンスによる子ども育成を通した地域力創造プログラム 2024 」
・ウェブサイト・コミュニティダンスのすすめ― Community Dance in Japan on web

4．子どもたちの創造力・表現力・コミュニケーション力を育む、創造的なダンス教育の普及

・学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業（コミュニケーション能力向上事業）＜NPO 法人提案型＞　――――――――― p.31
・京都府文化の心次世代継承事業　「学校・アート・出会いプロジェクト」

5．その他、講習・政策提言・アドバイザー等

・2024 年度公共ホール現代ダンス活性化事業　コーディネーター（神前・黒田）

Ⅱ．会　員　部　門

1.　コンテンポラリーダンスに関わる情報の発信　――――― p.36

・JCDN 会員サービス等

Ⅰ．事　業　部　門

1．国内のダンスアーティストの育成と創造環境作り

「コンテンポラリーダンス新進振付家育成事業 2024」

https://choreographers.jcdn.org/20-24

＜事業主旨＞コンテンポラリーダンスの振付家が生まれ、育ち、新しい作品が生み出される環境を全国のオーガナイザー（運営団体）と連携しながら形創っていきます。日本のあらゆる場所が起点となり、他の分野や地域の公共団体やホールなどと協働し、未来に向けてダンスの今を切り開いていきたいと思います。

1 -1.「KYOTO CHOREOGRAPHY AWARD 2024 -若手振付家によるダンス公演&作品を巡るディスカッション-」

＜趣旨・内容＞コンテンポラリーダンスの振付家育成プロジェクト「ダンスでいこう‼」の新プログラムとして2020年に創設。このアワードは、振付家の次なる活動へのステップとなることを目的に、作品発表の機会と賞を設け、観客と共に作品を巡るディスカッションを行います。審査委員にダンスのプロデューサーや評論家、他分野の専門家等を招き、京都賞・奨励賞・ベストダンサー賞などを決定。各賞は、作品の完成度・魅力だけではなく、振付家の未来に対する期待を含めた後押しとなる事を目指します。

3回目となる2024年は全国32組の応募の中から書類選考にて6組を選出し、府民ホールALTIで2日間に分けて上演。1日3組の上演後にディスカッションを行い、2日目の夜に各賞の授与式を行いました。観客投票によるオーディエンス賞も用意。

＜概要＞

■**日程**：2025 年 2 月 23 日（日）18:00・開演、24 日（月祝）15：00 開演

■**会場**：京都府立府民ホール ALTI

■運営アドバイザー：一般社団法人ダンスアンドエンヴァイロメント

■協力：北海道コンテンポラリーダンス普及委員会、ST スポット、山田企画、NPO 法人 DANCE BOX

■**料金**：（各日）　一般 2,500 円 / U25・障がい者 2,000 円 / 高校生以下 1,000 円　※当日 500 円増

（セット券）　一般 4,000 円／U25・障がい者 3,000 円

■**観客数**：23 日 137 名、24 日 111 名　計 248 名

■**参加振付家・作品**　＊振付家名・グループ名・活動拠点・作品タイトルの順に表記

・2/23(日)

Yang Chen（ヨウシン）／Fifth Arrow（東京）
「chairs：囲碁」

豊田ゆり佳（東京）／「籠＃3」

高橋綾子／Ayalis In Motion（東京）
「Political Spaghetti」

・2/24(月祝)

横谷理香（石川）／「あやつり　あやつられ」

宮悠介（東京）／「かたちたち」

中川絢音／水中めがね∞（東京）「しき」

※両日とも、3 演目終了後にディスカッションを行った。

写真左より：ヨウシン、豊田ゆり佳、高橋綾子、横谷理香、宮悠介、中川絢音

■ゲストパフォーマンス

KCA2024 の審査委員を務める振付家の作品をゲストパフォーマンスとして各日開演前にロビーで上演。

＜23 日（日）17:30＞黒田育世「モニカ　モニカ」

＜24 日（月祝）14:30＞東野祥子「親愛なる X へ」

■受賞結果

KCA 京都賞　：　宮悠介

KCA 奨励賞（2 組）：豊田ゆり佳、中川絢音

オーディエンス賞　（観客による投票）：高橋綾子、宮悠介

ベスト・ダンサー賞（出演されたダンサーに贈る賞）：荒俣夏美、小泉朱音（高橋綾子作品出演）

■アワード審査委員

※写真左より：石井達朗（舞踊評論家）／唐津絵理（愛知県芸術劇場芸術監督(アーティスティックディレクター)、Dance Base Yokohama アーティスティックディレクター）／黒田育世（振付家・ダンサー、BATIK 主宰）／高嶺格（演出家・美術家、多摩美術大学教授）／東野祥子（振付家・ダンサー、ANTIBODIES Collective 代表）／三上さおり（世田谷パブリックシアター　劇場部企画制作担当）／鷲田めるろ（十和田市現代美術館館長）

■書類選考委員

文（NPO 法人 DANCE BOX 事務局長）／呉宮百合香（アートコーディネーター・舞踊評論、急な坂スタジオ プログラム・ディレクター）／萩谷早枝子（ST スポット館長）／林慶一（フリーランス　制作者）／森嶋拓（北海道コンテンポラリーダンス普及委員会）／山田洋平（山田企画代表、舞台芸術家）／神前沙織（NPO 法人 JCDN　ディレクター）

■事業の成果：

◎作品、育成者に対して

募集段階の映像を全て観て選考に参加した立場から、どの作品もアワードという上演機会があることで作品と振付家が成長することを実感した。今回は 2 年前に比べると、応募の段階で一度上演はされているものの未完成の作品や、規模の小さな作品（経済的にカフェ、ライブハウス、小スペースでの上演しかできなかったものが多い）が半数以上だった。そのため、KCA 公演日までに作品がどうなるか分からず、興行として成立するか不安に感じる点が多々あった。そのため、チケット料金を安価にした。

一度上演された作品も、20 分程度から 25～35 分に改訂するなど、KCA 公演の規定に合わせたリメイクを行ってもらった。25～35 分の演目を上演する機会は世界的にみても少ないため、負担と感じる振付家もいるが、企画側としては作品の成長に欠かせないキッカケとなったと感じている。観客を含むあらゆる人に審査される事を念頭に、作品について考え取り組む機会になるからだ。一度上演した作品を再演する機会がほぼない昨今、若手作家にとって機会はあればあるほどいい。あと 10 分を足す作業が、場合によっては自身の限界をさらに押し上げる機会になっていたのを目の当たりにした。

というのは、ゲネプロではあまりうまくいっていなかった作品も、本番では力を見せた作品が多かった。一方で会場の広さに対応しきれず演出力不足が感じられた作品もあったが、やってみて初めて分かることで、この経験が必ずや次につながっていくと確信する。

なお、上演に当たりテクニカルスタッフが親身に、かつ公平に、各振付家と対応してくれたことは、本アワードにとって非常に重要だった。次に自主公演を行うときに、同じ対応力のあるテクニカルスタッフを揃えるのは難しいかもしれないが、日本の舞台芸術の第一線にいるスタッフと仕事をすることで、見えたこと、経験できたことがあるだろう。

◎トークに関して

作品の上演だけではなく振付家と作品をめぐるトークを行うことをタイトルに明記しているため、そのことに期待を感じて応募する振付家が多い。この傾向は初年度から変わらない。約 40 分程度の時間、ほぼ観客からの質問が途切れることなく続き、振付家がしっかり自分の言葉で語る充実したトークの時間になった。

◎集客、観客の反応

心配もあったが、前回より前売りの反応が良く、集客の課題は少し改善した。ゲストパフォーマンスの効果がかなり大きくあったと感じる。評価の定まった振付家のダンス作品を上演前に見てもらうことで、観客がダンスを観る準備ができた様子で、結果としてとても良かったという声を多く聞いた。

■課題：

○まだまだ、関東の振付家がバランス的に多いこと。今回は対策として地域枠を設定し、山代温泉から 1 作品を紹介することができたが、6 組の中に関西が入らなかった。この課題は、R7 年度「ダンスでいこう！！」プログラムを通して対策していく。

○依然として集客が大変だということ。地元の地縁者が一人もいないダンス公演に、足を運ぶ観客が少ない。ゼロではないが、50 人もいない。コンテンポラリーダンスそのものの魅力の発信を続けて行く必要がある。

○KCA らしさについて。現状、公募で選出する仕組みであることと、KCA の規定に達する振付家を各地で育てている段階である点から、他のコンペティションと同じ振付家・作品が選出される状況にあり、KCA らしさが認識されていない点がある。まだ始めて 3 回目の発展途上のため、今後も工夫をしていきたい。

■参加振付家のアンケートより：

○今回の KCA での経験は、私の創作活動において確かな転機となりました。自分の未熟さを受け入れつつ、いただいた助言一つひとつを糧に、より独自の表現を追求してまいります。この経験は一過性の舞台にとどまらず、これからの創作人生において深く根付いていくと確信しています。

○KCA で再演出来るチャンスをいただけた事で、自分が大切にしたい事について改めて向き合い、再考するきっかけと時間を持つことができたことが 1 番の財産です。

○たくさんの方に出会い交流ができたことで、今後のキャリアの再検討など大変有意義なきっかけになりました。今回を機会に、自分では振付家として日本で頑張っていくことは難しいのだなという現実もしっかり受け止めることができましたし、そういった意味で踏ん切りのつく良いきっかけになりまして大変感謝をしております。

○作家としての創作の在り方を問い直し、作家性を刷新する、進展させる機会となりました。　本アワード終演後に、ある審査員の方に「ウェルメイド（＝上手く作られた劇）を目指さないで」とお言葉をいただきました。もしかしたら振付を探る中で無意識的に、これまでの先人たちが打ち立てた「振付」の幻影を追いかけているのかもしれません。新しい課題と共にもっともっと踊り探る原動力をいただきました。

○創作過程において自分のやりたいものと再現性の高いものづくりのバランスを緻密に計算することの難しさと重要性を実感しました。

○今回参加させていただいて、とても良い創作環境で作品を発表できたと思います。スタッフさんとの連携がどれだけ重要か今回知ることができました。また、遠方からの参加ということで作品を地方に持ち出すことの経験をさせていただきました。いつもとは違う出演者とのコミュニケーションの場になりました。

■観客アンケート：

○なかなかコンテンポラリーダンスの普及も難しくなっている中、このようなアワードを設けて新進振付家の育成に力を入れられていることが素晴らしいと思います。パフォーマンスの後にトークイベントを行って作家の意図や作品について話が聞けることも良かったです。振付も、いかに新しいものを作っていくかということの難しさを感じます。

○3 人の皆さんの作品、どれもが見応えがあり、30 分ずつとは思えないくらいみっちりとした内容でうれしいものでした。最後の自分にとっての振付家とは何か？という質問に対して、皆さん（良い意味で）否定

的なかんじが、すごく良かったです。

○本日の 3 作品全てそれぞれに素晴らしかったです。表現や、ダンサーの方々の動き、身体表現の美しさを感じました。また、私が住んでる地域よりも、観客とのディスカッションへの質問や意見が多く、内容も面白く聞かせて頂きました。

○密度の濃い身体表現を間近に見ることができる貴重な機会でした。それぞれ独自のチャレンジと身体性があり、見応えがありました

○熱く深く掘りすすめたような骨太の作品たちでした。目にみえること以上に立ち上がるイメージがあり、想像や感覚、記憶が刺激される時間でした。

○ダンス公演はこんなに面白いものだったかしらと感じる時間でした。もっと不可解なものという印象だったのですが。

○コンテンポラリーダンスを発表する場や機会が増え、振付家やダンサー達の活動がサポートされることを望みます。

1 -2. 全国の劇場とのネットワークによる再演プラットフォーム：「Choreographers 2024－次代の振付家によるダンス作品上演＆トーク」

＜趣旨＞「Choreographers」は、振付家に光をあて、社会に対して発信すること。振付家、そしてダンス作品の価値や社会的意義を積極的に打ち出し、新しいダンスの観客を開拓すること。作品を再演する機会が増えることによって、作品が成長すること。これらを目的に行う公演＆トークのプログラムです。2021 年から全国の劇場と連携し、ダンス作品を再演する機会を継続的に形作ること、各地のダンス状況をリサーチし、トークと合わせて各地のダンスの刺激剤となる場を目指して開催しています。

2024 年は、「KYOTO CHOREOGRAPHY AWARD（KCA）2022」の受賞振付家による作品、上演地域に縁のある振付家がその地域の若手ダンサーと作る新作、そして 2000 年代のコンテンポラリーダンスの名作を現代の若手に振付するリバイバル作品、計 6 作品を地域ごとに 3 作品ずつ紹介。
札幌公演は、ダンス作品を作り始めた若手から中堅までをサポートする「ダンスでいこう！！」札幌プログラム『サッポロコレオ 2024』と同時開催。

札幌公演

■日程：2024 年 11 月 17 日（日） 14：00 開演
■会場：生活支援型文化施設コンカリーニョ
■共催：NPO 法人コンカリーニョ
■現地制作：CONTE Dance Production
■料金：一般 3,000 円、U25・障がい者 2,000 円、高校生以下 1,000 円　※当日 500 円増
■観客数：102 人

■プログラム・振付家・上演作品：

1 部　「サッポロコレオ 2024」作品上演（14:00～）

小林萌「ens」（東京）

タイラハルカ「新作」（札幌）

山崎彩美「PlayHouse」（札幌）

2 部　「Choreographers 2024」作品上演（15:00～）

写真左から：岡田玲奈、黒田勇／ Null 「Own Own」（東京）　*KCA2022 奨励賞

熊谷拓明「todo◯…」（東京）　*北海道にて出演者を公募し、新作を上演

きたまり「サカリバ」（札幌・京都）　*リバイバル ver.

3 部　アフタートーク　6 作品の振付家とゲスト　進行：森嶋拓、神前沙織

ゲスト：田仲ハル（舞踏家/グラフィックデザイナー）、櫻井幸絵（演出家）

■参加振付家・出演者のアンケートより：

◯一番の発見は舞台の存在の仕方です。今までは自分の内側から出てくる感情やエネルギーをお客さんに届くように外に放出することが多かったですが、今回の作品は良い意味でお客さんのことを考えすぎずに自然体な自分で舞台に存在することができました。自ら表現しようとするのではなく、素直に今起きている現象を感じてみる。その結果、自分はどんな感情になってどんな表現が生まれてくるのかを感じてみる。舞台から一番後ろのお客さんまで届けるのではなく、お客さんが舞台に意識をおろしてきてくれるような親近感を作る。新しい発見や感覚が沢山ありました。

◯自然体で舞台に存在することというのは言葉では簡単ですがとても難しいことでした。自然体でいよう、と考えている時点ではまだ自然ではなく不自然であることに気づかされました。

◯これまでいくつかのコンペティションに作品を出展してきたことがありますが、本企画のようにコンペティションで上演した”そのあと”の上演機会をここまで作ってくださるのは稀な気がいたします。つくり手として、自分の色味というのはあまり気にせずつくっていますが、客観的に自作を捉えることは私にとって意外と難しいもので、ほかの作品と並べて上演する機会があることで自作に対する気づきが増えました。

◯初演の際は自分自身のタスクをこなす事に時間を費やすことが多くなっていたが、再演では共演するダンサーと自身を俯瞰して見ることができたのが大きな収穫でした。再演を繰り返していく意味を改めて実感する機会となりました。

◯これまで作品を創作する際に、ダンサーへどのような言葉で、何処までの理想や哲学を伝えて行くかに迷いがありましたが、今回共に創作したダンサーの吸収力に、私自身が引き込まれ、これまで自分でも気が

付いていなかった言葉や、思考を発見し、ダンサーへ伝えて作品が成り立って行った経緯は、とても感動的なものでした。

■観客アンケート：

〇コンテはやっぱりむずかしいけれど、生で見ると迫力がすごくて、よかったです。語彙力がなくてうまくかけないけれど、とにかくかっこよくてすてきでした。

〇コンタクトがんばろう！と思いました。

〇今、みるべくして見たなと思いました。人の不完全さ、完全さ、みじめさ、こっけいさ、故の美しさ、人の面白さ、美しさ、そのはばが私の中でまた広がったように思います。

〇久しぶりにコンテの公演をしっかり見られてとても良かったです。最近札幌でなかなか機会がないのでこれからもやって欲しいです！！

〇全てを理解できたとは思えませんが 作品には物語を感じ　自分なりの解釈をさせてもらった感じです。振付家が作品全体を作られると知りすごい作業と情熱に溢れたものであると感じました。 知らない世界を観せて頂き良い経験となりました。

〇この振付に関するイベントは、ダンスをいろいろな事を考えながら、パズルのようなゲームのような、おもしろさがありますね。すばらしいです。

新潟公演

■日程：2025 年 2 月 7 日（金）19:00 開演、8 日（土）15：00 開演
　　プレトーク 7 日（金）18:00～18：45、8 日（土）14：00～14：45

■会場：りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館（スタジオ B）

■共催：公益財団法人新潟市芸術文化振興財団

■現地制作：アーツカウンシル新潟

■料金：一般 3,000 円、U25・障がい者 2,000 円、高校生以下 1,000 円　※当日 500 円増）

■観客数：7 日 107 名・8 日 57 名（8 日は大雪の影響で JR やバスなどの公共交通機関が止まったため、
　　前売りは完売であったが半数が来場できず、払い戻し対応を行った）

■振付家・上演作品：

写真左より：大森瑶子（東京）「Tuonelan」*新作　*KCA2022 京都賞・オーディエンス賞
池ヶ谷奏（新潟）「湊に眠る者たち」*新潟のダンサーとともに新作を上演
*KCA2022 京都賞・ベストダンサー賞
砂連尾理＋寺田みさこ（東京・京都）「男時女時」*リバイバル ver.

■プレトーク：　「メディアとしてみる、コンテンポラリーダンス！？」

（写真左）吉田純子（朝日新聞社 編集委員）×（写真右）呉宮百合香（アートコーディネーター・舞踊評論）

■参加振付家・出演者のアンケートより：

〇新潟という地での発表は初めてだったため、お客様の反応も新鮮でした。東京でばかり発表するとどうしてもお客様の反応が偏ってしまったり、作り方も自然と視野が狭くなってしまうような気がします。様々な場所で発表することが大事なのだと改めて思いました。

〇制作スタッフやテクニカルスタッフの方々の作品への向き合い方がとても丁寧で、舞台に立つ時に、とても信頼できた。作者や演者だけでなく、スタッフも含め、こういう人たちと共に今の日本の芸術を育んでいるんだなと知れたことが、今後につながる一番大きな発見だった思う。

〇踊り終わった後、真っ先に「もう一度踊りたい」と感じた。この作品にはまだまだ先がある。もっともっと深くまで潜っていきたい。本作に向き合うたびに、踊りへの探究心がくすぐられる。砂連尾理さんと寺田みさこさんによるデュオ作品「男時女時」にさらに向き合う機会をいただけたことに感謝している。

■観客アンケート：

〇初めてのコンテンポラリーダンスを見に、勉強しに来たのですが、想像の 100 倍楽しかったです。初めはなじみのない感覚に困惑していましたが、徐々に慣れて心地よくなっていったのが面白く、とても楽しかったです。約 2 時間で多くの価値観に触れることができ、今後のためになったと思います。ダンス単体で身近に見たのも初めてでとても良い経験になりました。

〇何を表現しているのか、何を伝えているのか、特になにもないのかもしれないけど、考え続けることが面白い公演でした。

〇プレトーク：お三方の話はダンスを観る上でとても分かりやすかったと感じました。自分はダンスについて素人なのでコンテンポラリーダンス自体が分かりにくく難しい。ただそこがミステリアスな魅力があるのだと思います。

〇みなれた Noism とはひと味もふた味もちがう雰囲気で関心をもって見させていただきました。いい作品作者に出会えてよかったです。

1 -3. 振付家を目指す若手を対象とした各地のプログラム：

「ダンスでいこう！！2024」

＜趣旨＞ダンス作品を創り始めた人やこれから創ろうとする人を対象に、各地域のオーガナイザーがその地域に適した育成プログラム（ワークショップ、トーク、公演など）を考案・実施します。他に、コンテンポラリーダンスの創造環境全体の向上に寄与する人材を育成するプログラムも実施します。

札幌プラットフォーム『サッポロコレオ 2024 振付家支援プログラム』

運営：北海道コンテンポラリーダンス普及委員会　（報告：森嶋拓）

■趣旨・内容：各自が作品を持ちより、作品についてアーティストや制作者、観客と対話を重ねながら作品をもうひとつ上のレベルに引き上げることを目的としたプログラム。4 日間の内容は各自の希望を最大限尊重し、対話を重ねながら柔軟に組み立てていった。加者は、募集 A「日本の振付家」1 組、募集 B「北海道の振付家」2 組、募集 C「創作立ち会い人」のカテゴリで全国公募を行い、5 組の振付家の参加が決定した。4 日間の最終日にショーイング＆ディスカッションとして成果を発表、アフタートークも行った。

■日程：2024 年 11 月 12 日(火)～15 日(金)　**■会場**：ターミナルプラザことに PATOS

■講師：写真左より：きたまり、平原慎太郎

■ゲストアーティスト：写真左より：鈴木涼子（美術）、高橋正和（照明）、田仲ハル（舞踏）

■参加振付家：上段写真左より：小林萌（東京）、タイラハルカ（札幌）、山崎彩美（札幌）

＊ショーイングのみ参加振付家（下段写真左より）：
今井琴美（東京）、おかだゆみ（東京）

■11/15 ショーイング＆ディスカッション参加者：12 名

■事業の成果：

○北海道内の振付家は、関東で活動している振付家よりも基本的にインプットの機会が少ない。最初はメンターからの問いかけに、振付の難しさを改めて思い知らされることになり打ちのめされてもいたが、しっかりと向き合い直して短い期間で劇的に作品が変化し、成長が感じられた。

○関東からの参加者は逆にインプットが多すぎる環境にあり頭でっかちになってしまう傾向があったが、北海道という環境で創作することによって視野と価値観が大きく広がったようにみえた。課題の異なる両者が一緒に創作することでお互いの刺激となり、好循環が生まれていた。

○募集 C は立ち合いのみではあったが、参加人数が少なかったことが功を奏して、空き時間にメンターに相談する時間や自身の作品のクリエーション時間などもとれたので、みんなで話し合ってショーイングにも参加してもらうことにした。

○A・B の枠で参加した 3 組は、4 日間を経て「Choreographers」札幌公演での上演の機会もあり、プロフェショナルなテクニカルスタッフとのやりとり含めて全てが育成に必要な過程であった。

○3 作品ともに、4 日間で劇的に変化があった。

育成者数：5 名

■課題：宿泊費などは各自で負担してもらったが、若手振付家のおかれている環境は厳しく、できればこちらで用意してあげたかった（予算的に難しかった）。

逆にいうと事業の課題はそれくらいで、事業成果の手ごたえもあり、参加者からも大きな転機となったと好評で、しいていえばこういった環境をこれからどうやって継続して作っていけるかということこそが課題な気がしている。

■参加者の声：

○今回のようなプログラムに参加するのは初めてでした。制作途中の作品をいつもと環境を変えて、集中的に制作したいと思ったのが参加させていただいたきっかけです。今回は平原慎太郎さんときたまりさんがメンターとして入ってくださり、迷ったり、分からなくなったらすぐに相談できる、とても恵まれた環境での制作期間となりました。とにかく言葉にすることを求められました。私は創作中、思いつきや感覚を頼りに突き進む傾向にあり、作品に多くの隙や雑さが残ることが多かったように思います。なぜそれを選択したのか、それに対する意味は、何を伝えたくて、どう伝わりたくないのか。“細部“を突き詰めていく、重たく、繊細な時間が流れていたように思います。そのおかげで論理化され、作品の内容がより明確に強度を増したと実感しております。また作品を作るときにもっと周りを頼っていいことも学びました。我儘に実現させたい事を相手に謙虚に相談すること。もの作りは 1 人ではできないものだなと、今更ですが、当たり前のことを気づかされ、人としても成長させていただいた滞在制作期間でした。

○今回、“サッポロコレオ 2024“に加え、“Choreographers 札幌“でも作品上演をさせて頂きました。せっかくの機会でしたので、それぞれの会場を生かした別々のテクニカルで上演させて頂きました。見え方や、体感が大きく変わり、自分自身、作品に飽きることなくパフォーマンスができたのはとても面白い体験でした。また、両方見にきてくださったお客様からも興味深い、嬉しいお言葉を頂けて、チャレンジしてどんどん作品を変化させていくことの大切さも実感しました。札幌のお客様、スタッフの皆さま本当に温かく、居心地がよかったです。また札幌に戻ってきたいです。精進します。ありがとうございました。

■実施後の効果：今後の活動のフォローアップということに関して、欲をいえば札幌でダンスフェスティバルを実施するなど公演事業を通して定期的にフォローできるのが理想だと感じているが、コンテンポラリーダンスを取り巻く環境は厳しく、アーティストにとっても私たち制作者にとってもサバイバルを強いられているということがあるのではないだろうか。コロナ以降、ネット文化の発達に反比例して劇場文化は厳しさを増しているように感じており、それは欧州でも同様だと聞く。JCDN も含めて、私たちもまたまずは事業を続け、アーティストとかかわりを持ち続けるということしかないのではないのだろうか。（森嶋）。

石川・山代温泉プラットフォーム『空間感覚で広がる振付・演出の世界 2024』

講座【VISION】、滞在制作・公演【VISION+】

運営：山田企画　（報告：山田洋平）

＜概要＞

ダンスでいこう！！2022、2023 にて行ったプログラムの 3 年目。
本プログラムではダンスそれ自体への追求ではなく、ダンスが存在するための諸条件（空間・美術・建築・伝統・身体・音楽・企画など）を鑑みる事に重点を置く。
振付家自身が所属している文化・環境を認識し、振付・舞踊の価値観を再構成する機会を設ける事を趣旨とする。振付家の視野と関係者を広げ、ダンス業界に留まらない広い社会との関わりの中で切磋琢磨し、劇場の内外両方での可能性を拓いていける人材を育成する。

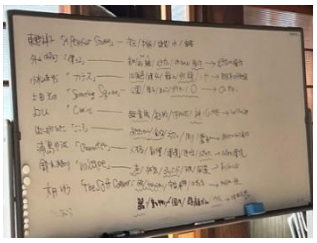
講座【VISION】　（A プログラム）

■日程：2024 年 8 月 27-29 日　**■会場**：山代温泉　専光寺

■講師：中島那奈子（ドラマトゥルク）東野祥子（振付家/ダンサー）コミンズ・リオ（株式会社 SEAMES 代表）寺西望（ファシリテーター）山田洋平（舞台芸術家）

■趣旨・内容：振付家が作品を演出し、存在させるために考えるべき要素（空間・美術・建築・伝統・身体・音楽・企画等）を学ぶ。育成者はあらかじめ、自分の作品についてのプレゼンテーションを準備し、WS の最初にプレゼンを行う。また、最終日に B プログラム参加のための審査会として、講師・育成者・地元在住者に対する最終プレゼンを行った。

■参加者：8 名



滞在制作・上演【VISION＋】　（B プログラム）

■日程：2024 年 11 月 20-24（計 3 回公演）

■会場：山代温泉　専光寺　　**■観客数**：50 人

■参加者：4 組

■趣旨・内容：ファシリテーター監修の元、A で学んだ事を基に山代温泉にて滞在、創作活動を行い、発表した。発表後、ファシリテーター・参加者を交えたディスカッションを行い、次回作への展望を共有した。また、関連企画として、児童館でのワークショップ及び私設図書館での地元在住者との対話・交流時間を設けた。

■ファシリテーター：山田洋平

■事業の成果：

【VISION】（A プログラム）

振付・舞踊の価値観を再構成する機会を設ける事を趣旨として、講師育成者間の対話、育成者同士の対話、育成者と観客・一般の方々との対話を数多く行った。対話の中で重要視した点は

①自身と他者は異なる価値観・前提を持っており、その中で価値観の意見交換を行っていくこと

②討論に勝つことや結論を出すために行うのではなく、価値観を客観的に理解するために行うこと

③自身のプレゼンや作品を客観的に捉え批評しながら、成長させていくこと。

それらを後押しするための仕組みとして、育成者のプレゼン相互審査、最終プレゼンの講師・育成者・地元在住者の３者による審査会を行い、それらをデータ化し、共有した。

結果、育成者自身や作品に対する客観性と、自身の価値観を提示し対話する方法を取得できた。

【VISION＋】（B プログラム）

作品に対する客観的な理解とそのプレゼン方法、及び作品のフィードバックを得るための観客との関係性の構築を中心に行った。具体的には

①中間発表として、育成者間による質疑応答とフィードバックを行った

②私設図書館において、地元在住者との対話・交流時間を設けた。

③児童館において、児童～８０代までの参加者対象に、育成者がワークショップを行った。

④公演での上演順・上演場所・休憩や観客移動の方法・終演後の交流時間の構成などを育成者自身がおこなった。

⑤最終レポートとして、今回の作品を別の場所で公演する場合の方法やその理由を提出させた。

これらの目的はすべて、振付家の視野と関係者を広げ、ダンス業界に留まらない広い社会との関わりの中で切磋琢磨し、劇場の内外両方での可能性を拓いていける人材を育成するためだが、結果、育成者は作品の在り方を劇場文化の枠組みの中から飛躍し、作品の社会の中における役割や作品と観客の関係性の在り方について考察できるようになった。

■課題：

※本事業を実施した結果として、実現できなかったこと等の課題を記載。

本予算内でできる最大限の成果を出せた。寧ろ出しすぎたと言っても良い。

今回の育成事業の趣旨への理解によって、講師・スタッフ・開催会場・交流会やワークショップを行った私設図書館や児童館には実質ボランティアに近い状況で本企画にご協力をいただいた。本企画の密度は本来この予算で行うべきではない内容であったと思う。実質的な報酬を度外視しながら、育成への情熱を持って協力していただいた方々には感謝の念しかない。育成･教育は日本の将来を作る重要なものだと考えているが、報酬が少なすぎる事は情熱を持って協力していただく方々への負担となり、継続性を阻害する原因となりうる。企画自体の成果は問題ないが、事業の課題としては予算集めを多角的に行うこと。

今後のブラッシュアップ予定

① 講師陣の多様性の確保：講師陣が舞台関係者に偏っていた。次回は観光・科学・技術・音楽など、多様な講師を確保したい。

②講師講義内容の充実：各講師に自由に講義をしていただくことは多様な視点を経験する面では良いが、全体の流れを考えるとややバラついた面もあった。ある程度的を絞った内容であってもよかった。

③リハーサル時間の確保：予算の都合上会場確保の期間が限られていたため、現場でのリハーサル時間が少なかった。滞在期間を増やし、現場でのリハーサル時間を確保したい。

④育成者担当ワークショップの開催回数：育成者が担当するワークショップの回数が今回は１回だったため、全員がワークショップを行うことができなかった。滞在期間の関係もあるが、全員が一度ずつワークショップを担当することが理想といえる。

⑤公演のメンターの確保：A プログラムの講師陣の中から１名メンターを確保したい。今回は山田が担当したが、公演全体と育成者のメンターの二役を行うよりも公演全体を担当したほうが望ましい。

■参加者の声：

○このような短期間で情報を吸収し、アウトプットするプロセスは、独立した振付家としての能力を大いに鍛えるものでした。この過程では、振付家自身の経験と新たに得た情報が、ほぼ直感的なルートで融合されるため、その人らしい個性が際立つのだと感じました。（中略）どのジャンルの舞踊であっても、ライブパフォーマンスアートの本質は、観客と共有する時間と空間の中での即時的な交流にあると考えています。この三回の公演を通じて、私の作品はまさにその瞬間的な空間のエネルギーを観客と共に築くことができました。そして、その過程で観客と「本当のつながり」を感じることができました。このプロジェクトは、舞踊芸術の本質的な観点からも、地域との連携という観点からも、空間性の拡張を見事に実現していたと思います。

○上演後の自分の感覚と、皆さんからいただいた意見とをすり合わせていくうちに、"ダンスとはこうあるべきだろう"という考えにとらわれていたことに気づきました。（中略）私はダンスをやりたいのではなく、人間の身体の面白さを追求して、それを人に共有したいのだと、考えを確かめることができました。今後の活動の選択肢がグッと広がったような感覚があります。

○山代温泉専光寺での滞在制作・発表では、実験的に作品を発展させることを受け入れてもらえる貴重な環境であった。ここで得られた学びは、大きく分けて２つある。１つは、上演環境が作品に与える効果や影響の大きさである。（中略）上演環境までを“振付”の大きな枠組みとして捉える経験を通して、作品内の身体の動きだけでなく、上演全体の空間と時間を構成する視点の重要性や環境が個々の作品に与える影響の大きさを学んだ。２つ目は、自分のアイデアを信じて試すことの大切さである。（中略）現地では、作品を試す余地を沢山与えてもらったことで、まず自分が本当にやりたいことを実際に試した結果、集中して創作を進めることができるようになった。

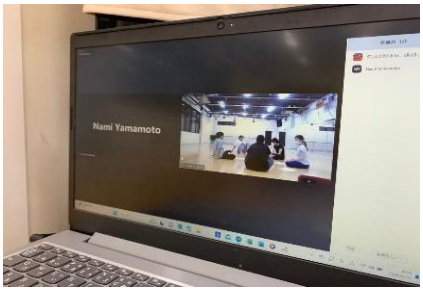
○夏のワークショップでは講義を通して振付家としてのいろいろな視点、作品をつくる過程で言語化することの大切さを改めて学ぶことができました。また、社会的にどのような影響があるのかなど今まではあまり深く考えたことがありませんでした。これからの創作活動において重要な視点だなと感じました。
また、この期間の中で、場所に応じて作品を組み替えたりお客さんに応じて対応していくことの大切さを学びました。今回はお寺ということで、寒さ対策をしながら他の作品との兼ね合いも考えて観客の位置を決めたり、公演の流れを決めていきました。そして自分の作品のことのみならず、公演全体の流れも他の振付者、出演者と共に計画していけたことで、公演を運営していく上で考えなければならないことが明確になっていきました。また、3 公演とも演出を変更しても良いとのことでしたので、今回本当にとても良い環境で作品を上演させていただけたと感じています。感謝いたします。

松山プラットフォーム『カラダで TRY ANGLE』

運営：(有)オフィスモガ　（報告：オフィスモガ）

■趣旨・内容：〈体験する〉〈創る〉〈観る〉の 3 つの場が、豊かなダンスの土壌に育つことを願い 2019 年から開始した「カラダで TRY ANGLE」。4 回目となる 2024 年度は、松山出身で現在ニューヨークで活動する振付家・ダンサーの山本奈美を招聘し、オーディション WS にてクリエーション参加者を選出、オンラインを交えた計 7 日間のクリエーションを経て成果公演を行った。「成果発表公演」後に「ダンスを語る場」も行った。

■日程：オーディション WS：8/8(木)　クリエーション：8/16（金）～10/4（金）
成果発表公演/ダンスを語る場：10/5（土）13：00/17：00　2 回公演
■会場：White dag-dag（ダンススタジオ MOGA）　■講師：山本奈美
■成果上演参加者：6 人
■オーディション WS 参加者数：16 名　クリエーション参加者：6 名
■観客数：昼 32 名、夜 41 名　計 73 名



8 月 8 日オーディションワークショップを行い、その後 NY の奈美さんとオンラインで稽古を行う。

「成果発表公演」にて、それぞれのソロダンスを発表。終了後「ダンスを語る場」

■事業の成果：

○出演者は、山本奈美さんとの WS とクリエーションを通して、新たな気づき、価値観、作品へのアプローチ、物事の見方、創作方法などを学ぶ大きな収穫の場となった。
また、大学生や社会人、あらゆる世代のダンサー・プロのダンサーが関わることで、お互いの思考や価値観を尊重し合い、深まりを持ちながら作品つくりができていた。

○全体での作品とは別に、出演者に対して、次への一歩へと繋がる「1 分のソロ」を発表する事で、作品つくりに対して、恐れず創作に向かう勇気をもらえた。

○講師が松山出身であったこともあり、山本氏の学生時代のダンス仲間・同級生、知人、家族などが集まり、観客層の幅が広がった。

○「ダンスを語る場」では、戸舘さんのナビゲートにより振付の意図や方法などを具体的に届けることができた。作品だけではなく企画の意図について伝える場になった。

■課題：

○大学の後学期の授業が始まる時期とクリエーションの日程が重なり、大学生の出演者はクリエーションへの途中参加や早退が多くなった。

○振付家の作品に出演することで振付方法を学ぶところから、次はそれぞれが短い作品をカタチにするプログラムにステップしていきたい。これまでの参加者は大学生が多く、それぞれの進路や人生設計の過程でダンスを選択するとは限らず、また選択したところで、いきなり生活できるわけではないため、社会人になってもダンスをやめずに継続して参加できる仕組みを整えるのが課題でもある。

■参加者の声：

○出されたお題や与えられたフレーズをいかに純粋な感覚で受け取り自分自身の身体の動きに繋げるか、という、自分との対話に集中することが出来ました。踊る上で大切なことを改めて感じさせていただいた瞬間でした。

○創作において、振付家としてやりたいこととダンサーが応えることのバランスを上手く取っていただいた。そのため否定の少ない環境で作品に向き合うことができ、自分が今まで使わなかった動きを生み出すことができた。自分の理性やロジックで動きに制限をかけるのではなく、良い意味で無責任に体を動かすことで、新たな動きにたどり着けた気がした。さらに、自分の思考の外にあるような意外な振りを生むためのプロセスを学んだ。自分の価値観で面白いと思うものからずらした動きが、自分や観客にとってどんな解釈を生むか、とても興味の湧く期間であった。大学で所属しているダンス部や、その他創作ダンスに取り組む今後の経験において活かしたい。

○プロの方はどのように作品を作られるのか、立ち位置や動き方、動いている時の意識など細かなところまで勉強になりました。なみさんの世界観が存分に味わえる作品だったので全てのことが新しく、とても楽しかったです。今回得た経験を元に今後の作品創作を進めていきたいと思います。

○クリエーションでは、出演者への言葉の掛け方やどんなエネルギーを出し参加者を動かしていくか。誉めながらも、いらない癖や邪魔になるダンサーのエゴを取り除いていきつつ、作品に集中してもらえる環境を作っていく様をそばで見聞きでき、私自身が今後、振付をする上での参考になりました。ダンサーに次に会うまでの準備をどのようにしてもらうか。課題の作品への活かし方や、個々の個性をその課題から見つける方法なども面白かったです。

○舞台で居ること。在ること。を経験しました。普通で在ることの難しさと、普通で在る表現方法を学んだ。

信州プラットフォーム『山あいの振付キャンプ－創りたいが創るに変わる－』

運営・制作：ADM Nagano　（報告： ADM Nagano）

■趣旨・内容：３泊４日の合宿形式で育成者が自然の中で創作に向き合い、自身にとっての振付を模索し発見していくプログラム。長野県では初開催。メンターとして、振付家／ダンサーの鈴木ユキオ、二瓶野枝、横山彰乃の３名が育成者の振付創作に伴走した。

■日程：9/13(金)～16 日（月祝）
■会場：草湯温泉冠着荘（長野県筑北村）
■育成者：16 名
■スケジュール・内容

9 月 13 日 オリエンテーション、鈴木ユキオ（メンター）による WS

9 月 14 日 横山彰乃（メンター）による WS、各自創作タイム、ゲスト講師によるレクチャーとクロストーク。ダンス以外の分野から藤原佳奈（演劇家）・分藤大翼（人類学者）・渡辺裕紀子（作曲家）が講師として登壇。

9 月 15 日 二瓶野枝（メンター）による WS、各自創作タイム、中間発表

9 月 16 日 ショーイング。合宿期間内に各自が創作した振付を、合宿参加者（育成者・メンター・スタッフ）で見合い意見交換。

■事業の成果：

○コンテンポラリーダンス創作が初めての人や、今までと違う方法で創作に取り組んでみたい人など、それぞれの課題にメンターが向き合い、育成者 16 名全員が最終日にソロ作品を発表(ショーイング)できた。

○育成者はメンターとの対話をはじめ、育成者同士のコミュニケーションの中で刺激をしあい、自分の創作方法を見出していける時間となった。また、会場を自然豊かな環境で合宿形式にしたことにより、県内・県外から多数の応募があり手応えを感じた。

■課題：

○初回であった本事業は、創作経験を問わずに幅広く募集をかけ、どのような人たちに興味を持たれるのか知る機会となったが、振付家として活動する意思がある育成者が、より力をつけていけるような内容も検討したい。

○日常から離れられる自然豊かな環境での合宿は、多くの育成者にとって創作意欲を掻き立たされる場であると分かったが、なかなか条件に合う場所を探すことが難しいので、本事業に協力的な場所や施設をリサーチしていきたい。

○県内の 20～30 代へ PR の仕方の検討。

■参加者の声（レポートより）：

○今まで細かく精査できていなかった自身の振付のディティールや感覚の言語化が出来た。

○集まった人たちの多様さが面白く、そこに「振付とは」「ダンスとは」といった命題の一つの答えが詰まっているかのようでした。それぞれがそれぞれの踊りをそれぞれの言葉で伝えようとする時間が、とても豊かなものだったなと思います。それに応えようとするメンターの言葉にも力があって、励まされました。

○冠着荘という空間や合宿という特殊な制限の中での制作/振付を考えるという事は、今後のレジデンス制作などにも役立つ可能性があり、かなり良き時間を過ごさせていただきました。

○振付ということに向き合いながら、"創る自分"にずっと問いかけられる時間もこの自然の中だったからできたんだろうなと思います。そして、ショーイングでは、色んな視点、価値観、考えをもった皆さんから意見をいただけて、とても貴重な機会でした。
これから、考え続けて、作り続けた先にあるものをやっぱりみていたいし、ダンスって何か、振り付けって何かをまだまだ考えるきっかけになりました。

○4 日連続で朝から晩まで振付に集中する機会は普段の断続的な生活では中々取れないので大変貴重な経験だった。人の声や車の音よりも虫の声が多く、いつもとは違う環境に呼応する身体も変わり、自己をスタジオに隔離して作る創作では出ない動きが生まれた。振り付けの幅もブラックボックス以外を使った創作も視野に入り、舞台に用いることのできないプロップを使った作品も創作できた。

全国＋北九州プラットフォーム

「短期集中ゼミ『振付を探る 9 日間の冒険』―歴史・動き・音楽・構成・法則―」

運営：JCDN、谷瀬未紀（ピカラック）　協力：北九州芸術劇場

■趣旨・内容：

韓国を代表する振付家チョン・ヨンドゥによるオンラインと対面による振付ワークショップ。映像も交えてヨンドゥ氏の「ダンスとは何か？」といった根本

的な問いに向き合い、振付について考えるオンライン講座と、対面で実際に参加者が振付を行うワークショップで構成。ダンスの歴史、音楽との関係性、動きのバリエーション、空間構成、時間構成など、振付に必要な要素を凝縮したプログラム。ワークショップの最終日には、参加者による振付作品のショーイングを行った。

■日程：11/30(土)～12 月 8 日（日）

■会場：プレ体験講座：オンライン 1 回

連続講座：オンライン 4 回　対面ワークショップ：北九州芸術劇場

■講師：チョン・ヨンドゥ（Jung Youngdoo）/韓国

■ゲスト講師：スーザン・バージュ（Susan Buirge）/仏

■育成者：連続講座のみ　16 名／連続講座＋対面ワーク 8 名

■受講料：①連続講座のみ参加：8,000 円　②連続講座＋対面ワークショップ：A）一般 50,000 円　B）学生　20,000 円　C）遠方割引(宿泊を必要とする方) 35,000 円

■連続講座：オンライン（zoom）4 回

2024 年 11 月 4・11・18・25 日 19:30-21:00

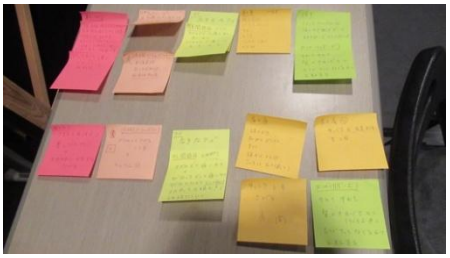
＜ダンスと振り付けの違い＞＜身体と重力＞＜具象と抽象＞＜物語のある舞踊、 物語のない舞踊＞

＜ダンスと身体パフォーマンスと映像を中心に…＞＜技術と舞踊＞などのテーマで、映像を交えた講義。

※オンライン講座のみの参加あり。

■対面ワークショップ：9 日間　2024 年 11 月 30 日（土）～12 月 8 日（日）

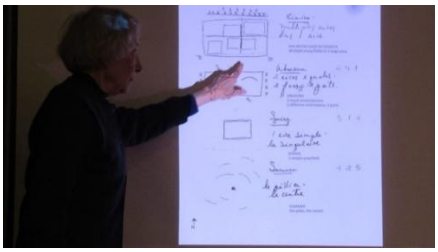
会場：Ｊ:ＣＯＭ北九州芸術劇場　創造工房・稽古場



■ゲスト講師　スーザン・バージュによる公開トーク

2024 年 12 月 1 日（日）14:00～17:00（開場 13:40）会場：同上　聞き手：チョン・ヨンドゥ

参加費：一般 2000 円　学生 1000 円　※英日通訳あり　（一般参加者：6 名）



■事業の成果：

○オンラインでの連続講座には 24 名が参加、歴史を解説しながらの映像資料の提供にとどまらず、「ダンスとは何か」「なぜ舞踊である必要があるのか」という根本的な問いかけに、参加者は自らの思考をつきつめる機会となっていた。また、講師のフラットな声掛けで、参加者が思ったことを言葉にしやすい雰囲気の中進んだ。

毎回 2 時間のオンライン講座の最後に「次回までの宿題」が出され、参加者は受講の時間以上にダンスのことを思考し、実験した内容をレポートし、自分自身の「振付」について考え、近づくことが出来たという実感を得ていた。

○北九州芸術劇場　稽古場での対面ワークショップでは、8 名の参加者が《個》の作業として振り付けをし、互いに発表を観て気づきや質問を言葉にする《互》の作業も体験した。

後半では他者と振付を部分的に提供し合う《互》の作業も組み込まれ、振付ということの苦悩の部分を参加者同士で分かち合うことでチャレンジが進んだ。

○9 日間、毎日が自身の短いソロの動きをシンプルに良くしていく作業で、オンライン講座で伝えられた、自分自身の振付をつきつめる（考える➔つくる➔見せる➔批評する➔直す）作業の実践版であり、自分なりのダンスをそれぞれが発表するところまで辿り着いた。

■課題：

○作品を創る経験がまだほとんどない 20 代から、ある程度経験値のある 50 歳までの 8 名が対面ワークショップに参加したが、経験値が浅い人には、ややついていくのが難しい内容だったかもしれない。ある程度自分で試行錯誤したことのある者ほど、9 日間の中の成長が大きく見られた。

○九州も他地域と同様に、30 代までの若手がほとんど作品を創ったり発表する機会がなく、もっと段階の異なる創作のためのワークショップや講座の必要性を感じた。劇場としても必要性は大きく感じておられるが、運営体制と予算と両方の課題があり着手できないため、JCDN のプログラムに協力することで開拓していきたいという希望を伺っている。今後も途切れずに開拓していきたい。

■参加者の声：

○自身の現在地を知覚するために非常に大きな意味を持つ機会であったと感じる。

○振付の概念を一度解体し、改めて「振付とは何か？」を問直す機会となり、踊りに対する視点が大きく広がりました。

○他の受講者のレポートを見ることは大変刺激になった。

○今回ヨンドゥさんが私たちに投げかけてくれたことは、この 9 日間で完結する内容ではなく、むしろ舞踊について太く長い研究と実験の始まりのきっかけをいただいたという感触があります。

○メンバー同士によるクリティカルレスポンスでは、ただ感想を述べるのではなく作者のコンセプトとプロセスを尊重し分析的なコメントが必要であり、メンバーにとってはまさに特訓の日々でした。

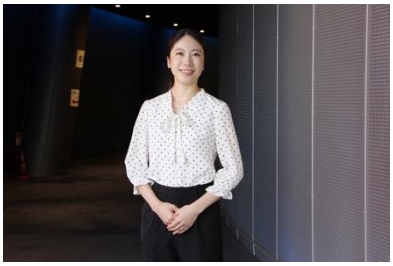
舞台制作者を知るオンライントーク『私がこの仕事を選んだ理由 vol.3』

運営：宮久保真紀、JCDN

学生や若い世代の方々にとって魅力的な仕事の一つとして「舞台制作」という仕事を知る機会として企画運営。現在活躍している 30～40 代の方々から「なぜこの仕事に出会い、選択し、今も続けているのか」を軸に彼らの仕事について掘り下げ、魅力を伝えるトークシリーズの第三弾。

■日程：2024 年 8 月 26 日～2025 年 1 月 20 日　各回 19：00～20：30／オンライン（計 7 回のトーク、各回約 60 分＋質疑応答）

■話し手：（写真上段左より）吉田雄一郎、今川和佳子、森下響子
（写真下段左より）豊山佳美、小川恵祐、岩中可南子



■インタビュアー：宮久保真紀、神前沙織

■対象：大学生、高校生を中心に 20～30 代前半、及び舞台制作に関心のある方。

■参加人数：計 83 名（一般通し 8 名、ダンサー・振付家通し 8 名、大学院生以下通し 30 名、特待生 1 名、JCDN 会員通し 2 名、1 回券購入者 21 名、JCDN 会員割引 1 名、招待 12 名）

■事業の成果：

○このトークシリーズは、2022 年に第一弾を行った際に全国から 130 名を超える申し込みがあり、第二弾も 70 名を超える申し込みがあったこと、大変好評だったことから第三弾を計画実施しました。

○第三弾も、全国からの申込みがあり、舞台制作への関心の高さを実感しました。

○制作の業務は、その人のバックボーンから現在従事している仕事先の組織等のミッションなど、広範囲にわたります。また、民間／行政機関の違い、関東／地方都市などでも視点の違いがあります。第三回では、過去 2 回で紹介しきれなかった地方都市を拠点にダンスの制作に関わる 40 代以下の人材の他に、アートコーディネーターとして分野をまたいで活動する人材を紹介しました。

○制作の仕事をしているきっかけは、人により異なります。また、続けている理由も様々で、一通りの正解がない難しさがある一方で、共通する点もあり、その幅広さを知って自分に合った現場を探すきっかけにしてもらうことが、一番のこのトークのねらいであり、成果でもあると思います。
○実際に、紹介したプログラムやフェスティバルを見に行かれた方や、視聴者にたまたま劇場で出会って声をかけてもらったケースもありました。

■課題：
アーカイヴ視聴も含めて購入される方が多く、リアルタイム参加者が少ない点は、課題のひとつとなった。リアルタイム参加のみ登壇者の関係者を招待にするなど、工夫は行いましたが、引き続きこの課題には対応していきたいと思います。

■参加者の声：
○このオンライントークを聴いて、必ずしも全員が卒業してすぐ今の仕事に就いたわけではないということを知り、視野が広がりました。やりたいことにはとにかく挑戦してみようという気持ちになりました。専門的ではない自分だからこそできることがあると気付かされました。
○現在どうしても専門的知識や経験がないと現場に関われないと萎縮して中々動けずにいましたが、今回のお話を聞いて少し気持ちが楽になったというか、アクティブに行動してみようと思えました。
○お逢いしたことがあった方でも、なかなか深くは聞くことができないバックグラウンドをお聞きしたことで、自分自身の活動がまだアートマネジメントと繋がってなくても、つなげることができる希望をもつことができ、諦めなくても大丈夫だという勇気をいただいた。
○舞台制作のお仕事をこのツールを通じて具体的に知ることができ、大変勉強になりました。
○良い意味で現実を知る事が出来たし、ゲストの方々の現職までの道のりをわかりやすく理解出来たので、大変魅力的なオンライントークでした。
○皆さん、紆余曲折があって制作のお仕事に就かれていて、でもその紆余曲折がそれぞれの今の活躍の大切な糧になっている事が興味深かった。各地の劇場のことや、そこで行われている様々な個性的な企画を知る機会にもなった。
○傍から見ていると一直線に突き進んでいるようにみえるみなさんも、その場その場の縁やタイミング、運が重なっていまのキャリアがあるのだということに改めて思い当たりました。ご経歴を聞くと、ご経験がそれぞれのアートマネージャーとしての強みになっているのだと分かって、なるほど…と思いました。また、いちばん舞台芸術やアートマネジメントに挫折しそうになったタイミングの話をお聞きしてみたいです。

———

■担当：神前、佐東
■コンテンポラリーダンス新進振付家育成事業 2024
「KYOTO CHOREOGARAPHY AWARD2024」「Choreographers2024」「ダンスでいこう!!2024」
■助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術等総合支援事業（芸術家等人材育成））｜独立行政法人日本芸術文化振興会　28,300,000 円

２．文化芸術による被災地の復興支援

三陸国際芸術祭　２０２４　訪レ　　https://sanrikuarts.com/

Ⅰ　三陸芸能大発見サミット（三陸芸能見本市（ショーケース）事業）

三陸沿岸各地域の芸能団体と、台湾の芸能団体が演舞を披露。複数の文化施設を会場とし、芸能鑑賞と市内を巡る回遊プログラム。地域住民や来場者が参加できる八戸文化体験やワークショップ等も開催する。また、台湾のＭＩＣＥ・観光誘致を目的として、台湾の旅行事業者やインフルエンサー等を招き、文化交流及び政府レベルでの連携や地域観光の潜在性の評価、三陸芸能大発見サミットの発信を目的としたファムトリップを実施。

2 日間 3 会場にわたり、国内外の芸能披露に加え、団体間のトークセッション等を実施。その他ワークショップや、市庁別館前広場では夜間に盆踊り＆DJ イベント、フードマルシェも同時開催。

開催日程　：　2024 年 10 月１１日(金）～１３日（日）

開催地　：　青森県八戸市

① 前夜祭

土日の中心街各所でのプログラムを前に、地元八戸市の芸能団体が横丁にて門付けを実施。

開催日時：2024 年 10 月１１日(金)　18：30～20：00

会場　：　みろく横丁

参加　：　八戸市 1 団体　出演　：　白銀四頭権現神楽保存会（八戸市）

来場者数　：　310 名

② 三陸芸能大発見サミット（芸能公演）

三陸と国内、台湾の芸能 14 団体が一堂に会し演舞を披露。

開催日時　：　2024 年 10 月１2 日(土) 12：00～20：30、１３日（日）11：00～16：00

会場　：　八戸まちなか広場「マチニワ」、八戸ポータルミュージアム「はっち」、八戸市庁、別館前広場

参加　：　国内 13 団体、台湾 1 団体 他

出演　：　鮫神楽連中（八戸市)、平内鶏舞組（階上町)、角浜駒踊り保存会（洋野町)、山根神楽保存会（久慈市)、野田村大黒舞の会（野田村)、鵜鳥神楽保存会（普代村)、大宮神楽保存会（田野畑村)、中野七頭舞保存会（岩泉町)、末角神楽保存会（宮古市)、大槌町虎舞協議会（大槌町)、鵜住居青年会（釜石市)、赤澤鎧剣舞保存会（大船渡市)、田子神楽保存会（田子町)、台南市安南区本淵寮朝興宮金獅陣（台湾)、赤丸急上昇（ダンス)、田附勝（写真家)、ヴィヴィアン佐藤（美術家)、石橋晃寛（十一日町えんぶり組）

出演者数　：　427 名、来場者数　：　6,797 名、スタッフ数　：　70 名

③ 八戸三社大祭山車展示とお囃子体験
④ 盆踊り＆DJ イベント
⑤ 美術家ヴィヴィアン佐藤氏によるヘッドドレスワークショップ作りを実施。
⑥ 写真家 田附勝・ヴィヴィアン佐藤トークライブ
⑦ 酒蔵で「角打ち＆郷土芸能」・「芸能人（びと）石橋さんの部屋」

Ⅰ－2 ファムトリップ

台湾から文化関係者を招き、「三陸芸能大発見サミットと台湾の架け橋／文化交流の旅」を実施。
開催日程 ： 2024 年 10 月 9 日（水）～17 日（月）開催地 ： 八戸市内および三陸沿岸地域
参加者 ： 台湾台南市政府文化局主任秘書 黄 宏文 氏、風向旅行ゼネラルマネージャー游 智維氏、神川旅行者董事長 蔡 承鴻 氏、YouTuber 掛村 祐介 氏、他 計 6 名

Ⅱ 三陸オオツチ未来芸能祭・オオツチ祭生（さいせい）ミーティング

三陸沿岸の若い芸能継承者を対象とし、三陸の芸能者やプロの芸能者等との交流により地域の未来を考えるミーティングと、芸能祭を開催。
開催日程 ： 202 4 年 10 月 5 日(土）～6 日（日） 開催地 ： 岩手県大槌町

①オオツチ祭生ミーティング

三陸や県内の次世代芸能者を対象に、大槌町「臼澤鹿子踊保存会による震災講話、鹿子踊や食文化の体験交流、ミーティングを実施。また参加者向け特別プログラムとして「大槌町郷土芸能かがり火の舞特別公演」を実施。
開催日時 ： 2024 年 10 月 5 日（土）13：30～21：00 会場 ： 臼澤鹿子踊保存会伝承館、小鎚神社
参加者 ： 綱澤綾子 氏（オーストラリア ワールド太鼓カンファレンス（以下 WTC 派遣者））、
Diana Wu 氏（アメリカ WTC 派遣者）、岩泉高校郷土芸能同好会、ふるさと芸能集団いろは、大槌高校生、一般申込者 等
参加者数 ： 205 名、スタッフ数 ： 12 名

② 三陸オオツチ未来芸能祭

県内の次世代芸能者が、それぞれの郷土の文化に彩られた芸能を披露。
開催日時 ： 2024 年 10 月 6 日(日)13：00～16：00 会場 ： 御社地公園
出演 ： 大槌鹿子踊（臼澤・上京／大槌町）、甲地鹿踊り保存会（田野畑村）、前田郷土芸能保存部・前田こども鹿踊り（大船渡市）、岩手県立岩泉高等学校郷土芸能同好会（岩泉町）、ふるさと芸能集団いろは（花巻市・北上市・紫波町）、大槌町虎舞協議会（向川原・陸中弁天・大槌城山／大槌町）
出演者数 ： 138 名 来場者数 ： 447 名 スタッフ数 ： 24 名

Ⅲ　三陸芸能祭ＬＩＮＫ　（三陸芸能催事の磨き上げ・観光誘発事業）

三陸地域の関係人口拡大・地域の活性化を目指し、三陸沿岸の芸能催事を日英中（繁）3 か国語で PR し、催事に合わせたモデルコースを提案。

Ⅲ-1 三陸芸能催事の国際ブランド化（芸能催事発信・広報媒体制作）

① 芸能催事を本芸術祭ＷＥＢサイトにて日英中（繁）3 ヵ国語で発信
期 間 ： 2024 年 8 月～2025 年 3 月
件 数 ： 14 件- 山田の秋まつり（山田町）/ 三陸ブルーラインプロジェクト 三鉄の縄文体験（宮古市）/ 大槌まつり（大槌町）/ ふだいまつり（普代村）/ たのはた産業まつり（田野畑村）/ すみた産業まつり（住田町）/ 岩泉郷土芸能祭（岩泉町）/ 大船渡市民俗芸能継承フェスティバル Part2（大船渡市）/ 黒森神楽舞初め（宮古市）/ 野田村小正月行事（野田村）/ 第 29 回久慈市郷土芸能祭兼北緯 40°ナニャドヤラ連邦郷土芸能交流会（久慈市）/ 階上町早生えんぶりまつり（階上町）/ 第 14 回虎舞フェスティバル（釜石市）/ 八戸えんぶり（八戸市）

② パンフレット・レポート製作
2022・2023 年度に発行した、芸能情報と観光・文化情報をまとめた芸能観光パンフレット（カード型）の英語版および、本年度の三陸国際芸術祭ツアーレポートをまとめたタブロイド紙を作成。

Ⅲ-2 三陸芸能催事の観光化

本芸術祭および三陸地域の芸能催事を軸としたモデルコースの造成及び観光ツアーを実施。
①‐1 三陸の芸能催事来場者へ向けたモデルコースを造成
期 間 ： 2024 年 8 月～2025 年 3 月
件 数 ： 10 件
②　‐2 観光催事・観光事業者との連携、その他日本博事業との連携（その他事業に併記）
③　三陸の旅行業者や関連事業者を対象とした「三陸の郷土芸能を活用した国際観光促進等に関するヒアリング調査」を実施

■担当：佐東（全体プロデューサー）　■三陸国際芸術推進委員会事務局(盛岡)：葛谷誠・岡田ゆうこ
■ディレクターおよび担当事務局
　三陸芸能大発見サミット　今川和佳子（imajimu）八戸
　海外団体・ファムトリップ　前川十之朗（みんなのしるし合同会社）大船渡
　三陸のだむら未来芸能祭　小岩秀太朗（全日本郷土芸能協会）東京
　三陸芸能 LINK　坂田雄平（いわてアートサポートセンター）盛岡

■三陸国際芸術推進事業（三陸国際芸術推進委員会に対して）
　令和 6 年度 日本博 2.0 事業（委託型）　■全体予算：70,332,000 円

3．「すべての人がダンスと出会う」機会を作る、コミュニティダンス

こちかぜ（東風）キッズダンス 2024

―東山区発の、ダンスによる子ども育成を通した地域力創造プログラム 2024―

＜経緯＞　2014 年 6 月、京都市東山区・東山いきいき市民活動センターを拠点にスタートした、周辺地域（東山三条）の子どもたちとのコミュニティダンス・プロジェクト。活動 3 年目の後半から、公募で集まった子どもたちと三条学童保育所の子どもたちが一緒にワークショップに参加するようになり、継続 11 年目となりました。とても元気でエネルギッシュな東山の子どもたちは、“東からふく風”＝東風（こちかぜ）キッズと名づけられ、ダンスはもちろん、衣裳やチラシの素材など、アーティストのナビゲートのもと、子どもたち自身のアイデアを活かして自由にのびのびと創造する場になっています。

＜実施概要＞
【メインプログラム（公募ワークショップ）】(2024-2025)
期間：　2024 年 8 月 1 日～2025 年 3 月 27 日（計 12 回）
＜夏秋編＞
「今年もとびきり HAPPY　DAYS！」8 月 1 日―11 月 3 日（9 回）
＜冬編＞
「さあ！ちょっと世界を広げよう！」2 月 1 日―3 月 27 日（3 回）

会場：京都市東山いきいき市民活動センター 集会室他
対象：京都市三条学童保育所の小学生、近所の子どもたち
　　公募参加者／4 歳から中学生（経験問わず、だれでも OK！）　　参加者数：延べ 166 人

[ワークショップナビゲート・作・演出] セレノグラフィカ（隅地茉歩・阿比留修一）
[サポート・アシスタント] 琥珀、キムチ（こちかぜ OB ダンサー）
[冬編　ゲスト] 阪本麻紀（俳優）、柳生恵吾（日本舞踊家）

[企画・制作] 神前沙織（JCDN）［制作アシスタント］清水彩加
[制作協力]　岡本卓也、井手葵唯（東山いきいき市民活動センター）
[主催] NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク(JCDN)
[共催]有限責任事業組合まちとしごと総合研究所（京都市東山いきいき市民活動センター指定管理者）
[特別協力] 三条学童保育所
令和 6 年度子どもゆめ基金助成活動　　後援：京都市教育委員会

＜内容・成果＞ 本事業は実施 11 年目を迎えました。10 年間のダンスの活動を通して、変化と交流が生まれつつあります。今年も夏秋編と冬編に分けて開催。東山三条地域の子ども（三条学童保育所）と公募の子どもが混ざり合い、子供たち同士の交流や居場所となること、外の世界を知り、自己肯定感を育むきっかけとなっています。

夏秋編の成果上演日、11 月 3 日は、太陽が眩しく感じるくらいの秋晴れの文化の日。8 月 1 日から計 7 回のダンスのワークショップと 1 回の小道具作りのワークショップを行い、本番日を迎えました。参加したのは、京都市三条学童保育所の小学校 1 年生～4 年生 6 人と、公募参加の 4 才～小学校 6 年生の 3 人、そして今年からナビゲーター：セレノグラフィカのアシスタントを務める、こちかぜキッズ OB の高校生。舞台は「三条まちづくりフェスタ」という、こちかぜキッズの子どもたちの地域のお祭りで、年に 1 回、地域の方々が老若男女たくさん集まる場となっています。作品タイトルは「Striking Stars」。それぞれが全く違う輝きを踊ること、自分が気づく自分の輝きを。という願いが込められた、素敵なショーイングでした。
冬編ではゲストを迎えたことと単発参加がしやすいため、多くの公募参加者が集まりました。子どもたちが多様な芸術に触れ、新たな世界を経験する貴重な場となっています。また、こちかぜキッズ OB の高校生、キムチと琥珀が最終回の 2 時間のワークショップをナビゲート。事前のミーティングをセレノグラフィカさんの稽古場でしっかりと行い、堂々としたナビゲートでした。
毎回のワークショップでは子どもたちの自由にのびのびと表現する姿が多くみられ、子どもたちにとって家庭や学校とは違う第三の居場所となっています。

■担当：神前（・清水）　　■令和 6 年度子どもゆめ基金助成活動
■予算：　650,000 円

ウェブサイト・コミュニティダンスのすすめ
― Community Dance in Japan on web

日本のコミュニティダンスのあらゆる情報を集約する、情報ポータルサイト。
コミュニティダンスに関わる個人・団体であればだれでも登録でき、自身の活動をこのサイトで告知することができます。コミュニティダンスの場を求めている方や、どこにどのような人材がいるか知りたい方のための情報検索、研究者の論文掲載など、コミュニティダンスに関わる方々の情報を集約し発信していきます。2022 年 4 月 25 日にリニューアルオープン、多くの方に活用していただいています。

http://cdj.jcdn.org/

＜リニューアル後の主な機能について＞
・コミュニティダンスに関わる個人・団体であれば誰でも登録でき、自身の活動を告知することができます。
・登録者（掲載者）は初回のみ ID と PW を入手いただく必要がありますが、その後は同じ ID と PW で公演やワークショップの登録を行えます。また、プロフィールやロゴ等を登録可能なほか、「この記事を書いた人」の「最近の記事」という表示で、登録者別の記事閲覧ができます。
・全ての記事は、地域別、活動分野別、公演またはワークショップなどの種別等での検索ができます。
・登録者（掲載者）と別に、ファシリテーターを登録する機能があり、サイト訪問者が、ファシリテーター一覧やファシリテーターごとの記事の検索ができます。
・「コミュニティダンスのススメ」LINE アカウントと連動した情報告知機能があります。
・他に、インタビュー、事業報告書、海外の事例（調査報告レポート）、研究論文　などの記事投稿も可能です。

■担当　神前　■サイト製作（リニューアル）：creative unit DOR　デザイン：西谷デザイン　　■イラスト：梢夏子

4．子どもたちの創造力・表現力・コミュニケーション力を育む、創造的なダンス教育の普及

令和６年度文化庁「学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業－コミュニケーション能力向上事業－」<NPO 法人提案型>

からだを使ったコミュニケーションや創作方法である“ダンス”を通じて、児童生徒の創造力・想像力・コミュニケーション力の向上を目的に、アーティストが学校へ出向いて行うワークショップをコーディネート。令和６年（2024 年）度は、前年度に同じ大阪府堺市・沖縄県・滋賀県の３地域　計 11 校で実施しました。

＜実施内容＞　開催地/実施順

実施日	地域	実施校（対象児童生徒数）	◎講師 ●補助者	実施内容、児童生徒・先生の反応や感想等
6 月 11～13 日	堺市	堺市立 福泉東小学校 （4･6 年生各 1 クラス 40 名）	◎合田緑 ●内田結花、後藤禎稀、小野下未来	6 年生 23 名、4 年生 17 名を 1 学年 2 セットずつ実施。各学年で 3 日間を通して一つの創作作品を創った。先生から、普段はシャイな児童も運動が苦手な児童も早い段階で自分の体を解放して動けていたり、積極的に創作に関わり自発的に意見を出していたりと児童の変化を見られたと感想を頂いた。
7 月 16～18 日	堺市	堺市立 浜寺小学校 （6 年生 2 クラス 74 名）	◎アオキ裕キ ●内田結花、小野下未来	6 年生 2 クラス　合計 74 人（各クラス 37 人）を全員で 1 日 3 時間、3 日で 6 時間 45 分実施。6 年生は、2 年生の時にコロナがあり、その後は新校舎の工事のため運動場が使えず、みんなで遊ぶこともできなかった。そのため運動する子としない子に 2 極化している。思い出作りもかねて 3 日間で映像作品を作り、最終日に全員で鑑賞会を行った。ワンシーンごとに歓声や笑いが起き、最後は全員が大拍手。「みんなが自由な表現が出来ていて見ていて楽しかった」「楽しかった」などの声が児童から聞かれた。
10 月 30～11 月 1 日	堺市	堺市立 富山台小学校 （1･5 年生各 2 クラス 133 名）	◎中村蓉 ●森岡美結菜、長野里音	1 年生 2 クラス 69 人、5 年生 2 クラス 63 人。1 年生は各クラス 1 日 45 分、5 年生は 1 日 2 クラス合同で 90 分実施。各回の最後に講師が用意した約 2 分の振付を練習。写真や映像から得たイメージを体で表現するワークなどを行った。先生から、普段は大人しい子が自分を出している姿が見られ、率先してワークに取り組んでいて驚いたと感想を頂いた。
11 月 19・25・12 月 3 日	堺市	堺市立 榎小学校 （2 年生 2 クラス 138 名）	◎田中幸恵 ●貫渡千尋、増川建太	2 年生 4 クラス。1 クラスづつ 45 分×3 日で実施。最初は緊張や慣れない活動から、あまり集中力が続かない児童が多かったが、グループワークなどに挑戦し、どんなことをやるかがわかった安心感で静けさにも集中できるようになった。先生から、こういう授業こそ年度の初めに実施して身体を通してコミュニケーションを感じられることを体験できると良いと意見を頂いた。
9 月 17・19・20 日	滋賀県	日野町立 南比都佐小学校 （3･4 年生各 1 クラス 32 名）	◎鈴村英理子 ●ドナルド、HIDE（打楽器奏者）	3 年生 14 人、4 年生 18 人各学年 45 分ずつを 2 日間、最終日のみ合同で 90 分実施。自分の名前を身体で空間に描くワークでは、それぞれが人のマネをすることなく、自分で工夫して動けていた。最終日は、3 日間で行った動きを繋げて、ひとつの踊りを作った。生音のためリズムやタイミングや音量を変えられ、様々な生徒のリクエストに対応でき、生徒たちがとてもいきいきとした。先生から、今回の経験を運動会で活かして自分たちの踊りをつくりたいと話してくれた。

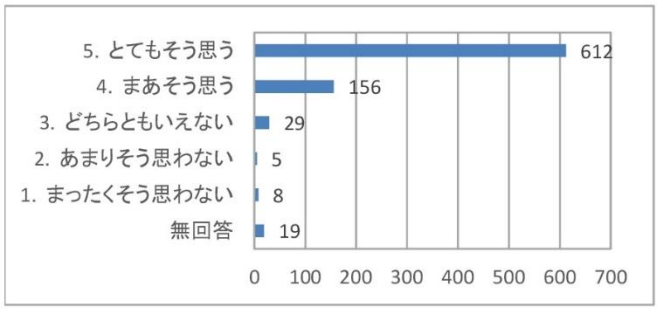
9月24・26・27日	滋賀県	近江八幡市立武佐小学校（3年生1クラス、4年生2クラス68名）	◎東野祥子 ●新井海緒、保井岳太	3年生1クラス26名、4年生2クラス42名　計68名。秋の体育祭（10月1日から練習開始）のオープニング（1分半ほど）の内容をこの体験ワークショップで創作することを目標に実施。新しいこと、楽しい事への好奇心が旺盛で初日たくさんのワークを体験してもらった上で、2日目以降、体育祭の振付創作をした。全員がノリノリで参加していて、普段はコミュニケーションが苦手という児童もダンスだけ受けに来るほどで、先生から「身体を動かす機会がコロナや熱中症対策で減って、最近は体力が落ちて給食が食べれない子がいたりしていたので、楽しく身体を動かす機会を欲していた。ダンスはとても適した活動で、毎日毎日発見や成長が見られ感動の連続で、もう終わるのかと名残惜しい。」と感想を頂いた。
12月9・12・16日	滋賀県	東近江市立五個荘小学校（6年生3クラス108名）	◎鈴村英理子 ●ドナルド、千代その子	6年生3クラス。70分を1コマとして各クラス1コマ×3日で実施。初日、子どもたちは緊張する様子もなく自然体でダンスを受け入れていたが、共通の課題として「一人で歩く」というシンプルなことができない点が気にかかった。だが、最終日には4人程のグループで、短い動きを繋ぎ合わせ起承転結のストーリーにしていくという創作ワークで、自分で考え自分の力で少しずつ表現し発信する姿、異なる意見が出ても否定しない、などの変化が見られた。
7月17～19日	沖縄県	那覇市立大道小学校（6年生2クラス50名）	◎ｾﾚﾉｸﾞﾗﾌｨｶ（隅地茉歩・阿比留修一）	6年生2クラス50名、1クラスごとに実施し、3日目に合同でショーイングを実施。6年生にはこれから運動会や学習発表会などの行事で、子どもたち自身が主導することや、自分の思いや意見を言えること、殻を破ってほしいと先生からの期待を伺っていた。初日から全体としてとても積極的で自由に創造力を発揮して思い思いのダンスに取り組めていた。3日間で用意していたワークがどんどん進み、最終日のショーイングも充実したものになった。
7月16日	沖縄県	国頭村立奥間小学校（全校児童80名）	◎ｾﾚﾉｸﾞﾗﾌｨｶ（隅地茉歩・阿比留修一）	1－6年生80名。県北部の小規模校。1－3限目まで全校で3コマ通して行う1日体験授業を実施。想像していたより高学年はシャイな児童が多かったが、低学年が全体の空気を作ってくれた。先生から「ダンスを通して、コミュニケーションをとることができて良かった。」「指導者としてダンス表現を行う際に、顔の表情や細かい仕草などもとても勉強になり、今後の指導で活かしていきたい」などの感想をいただいた。
11月19日～21日	沖縄県	沖縄市立諸見小学校（3・4年生各2クラス106名）	◎赤松美智代、丸山陽子	3年生2クラス55人、4年生2クラス50人、各2クラス合同で90分×3回実施。アーティストがお題を出し、瞬時に体で表現するワークや、2人組、4人組、8人組など人数を変えてグループワークを行った。児童一人一人がしっかり自立して柔軟に対応していた。先生方から、講師2人の声掛けがとても良く、普段はあまり積極的でない生徒や、けんかするような生徒も、今回は真剣に取り組んでいたと感想をいただいた。
11月27～29日	沖縄県	竹富町立大原小学校（4～6年生2クラス23名）	◎マニシア ●山田一人（ジャンベ奏者）	4・5・6年生2クラス23名。西表島の中でも人口が多い学区。とはいえ、ほぼ全員が移住者のお子さん。小さい頃からどこの誰かすぐわかる環境で育つ離島の特徴なのか、全体的に恥ずかしがりやが目立つ。初日はなかなかほぐれない様子もあった。しかし、先生に話を聞くと「とっても楽しんでいる」事が分かり、2－3日目もプランしたワークについてきてくれた。最終日は、目覚めたように身体や目つきが変わり、人に見せる自信が生まれている様子だった。最終日は島の学校ならではで、地域の方や、学校の先生、子供たちみんなに温かく見守っていただいてショーイングを行った。

文化庁令和6年度「学校における・体験推進事業（コミュニケーション能力向上事業）＜ＮＰＯ法人等提案型＞」児童・教員アンケート集計（自由記述部分を除く）

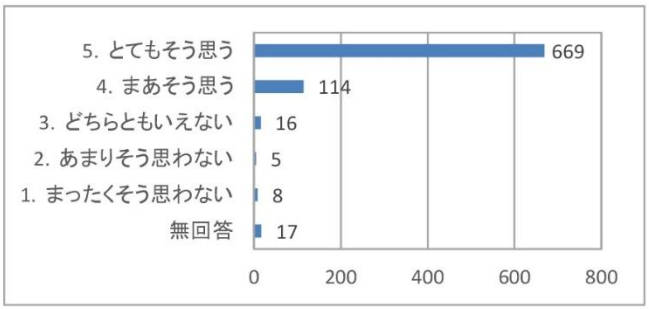
【児童アンケート】　回収 829枚（男379名、女427名、無回答23名/合計11校中回収できたもの）

質問　ダンスのワークショップに参加してみて、どうでしたか？

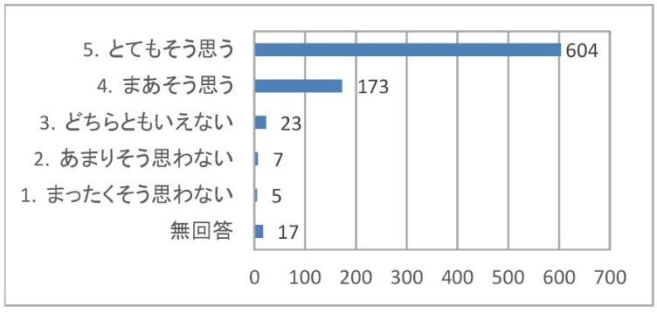
1）満足しましたか？



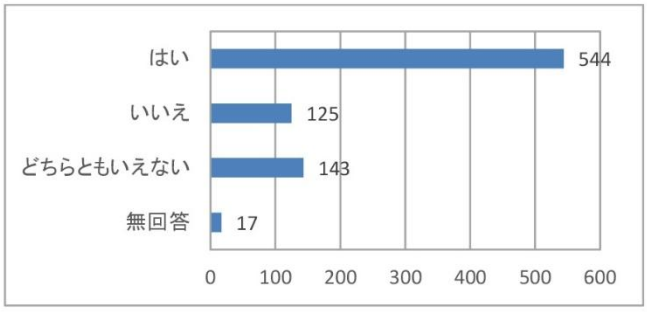
2）楽しかったですか？



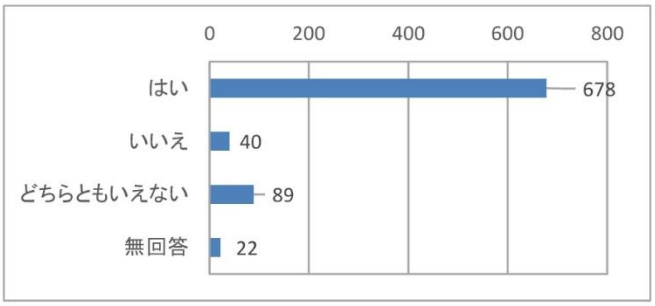
3）説明はわかりやすかったですか？



4）いつもと違う友達の様子を見つけましたか？



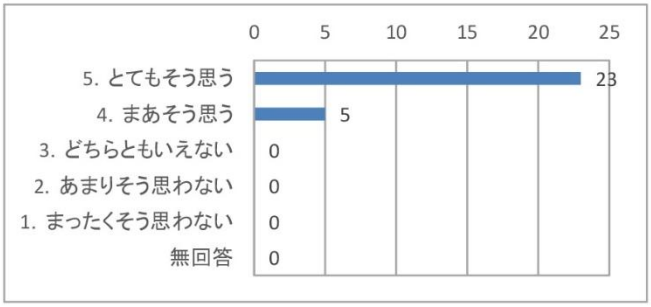
5）また参加してみたいですか？



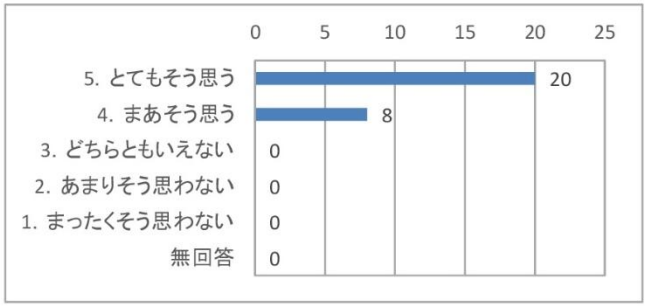
【教員アンケート】 回収 28枚（計11校）

質問①　児童の様子について、下記の項目に1～5段階でお答えください。

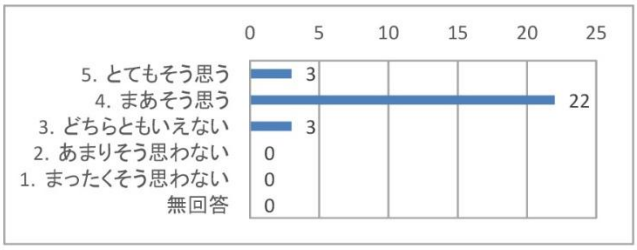
1）子供たちの豊かな自己表現がみられた。



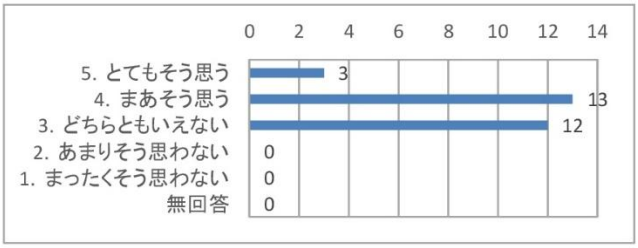
2）普段に比べて、子どもたちが自発的に参加していた。



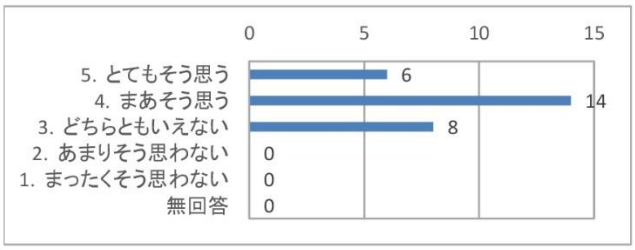
3）子供たちが、自分の行動や発言に自信を持つようになった。



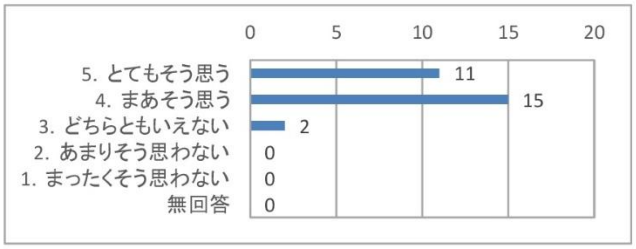
4）クラスの中で、子どもたちの関係性が変化した。



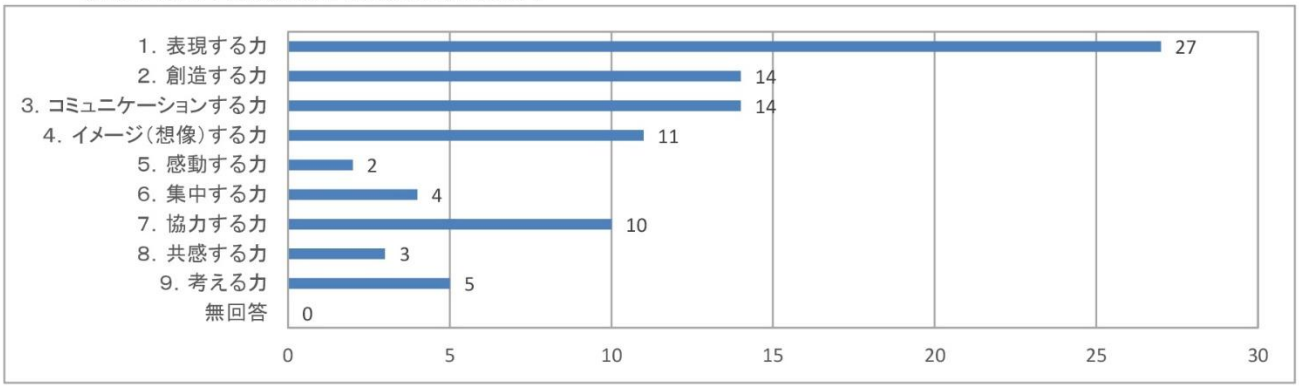
5）以前より協調性が生まれた。



6）今まで知らなかった友達の良さや特徴を発見した。

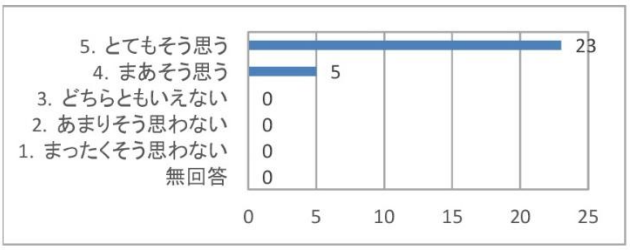


質問② このワークショップが、児童生徒のどのような能力を育むことに効果が高いと思いましたか？
（下記の中から当てはまる上位三つに○をつけてください）

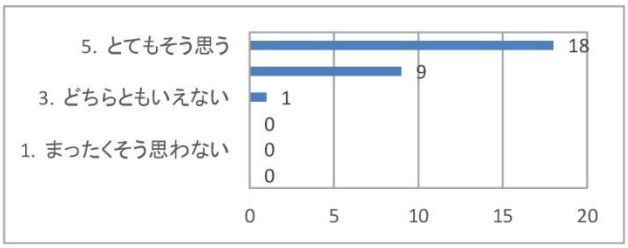


質問③ 先生ご自身について、下記の項目に1～5段階でお答えください。

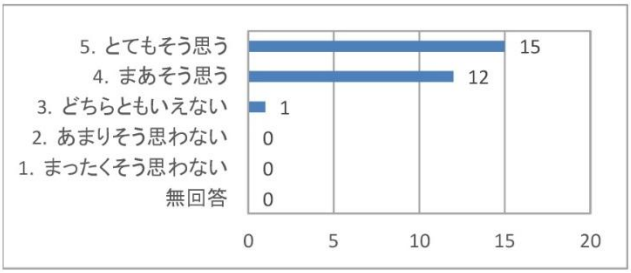
1）ダンスアーティストの考えやワークショップ方法を知ることで、普段の授業に活かすためのヒントを得ることができた。



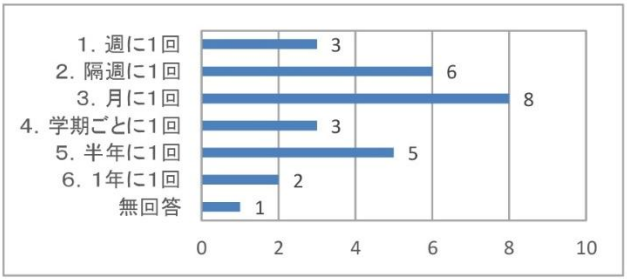
2）いままで知らなかった子供たちの新たな面を発見した。



3）今後のクラス運営に役に立つことを得た。



4）どのくらいの頻度で行えば定着すると思いますか。



■コーディネーター：神前・佐東・黒田

■（文化庁）令和 6 年度学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業（コミュニケーション能力向上事業）＜NPO 法人提案型＞　■予算：　4,280,203 円

京都府 文化の心次世代継承事業「学校・アート・出会いプロジェクト」

「学校・アート・出会いプロジェクト」は、京都府内の児童生徒に対し、質の高い文化・芸術を体感する機会を提供することにより、豊かな心を育成するとともに、京都の文化・芸術の振興と次世代への継承を図ることを目的として実施されている。JCDN は体験プログラム（表現力・創造力・コミュニケーション力を高めるための創作ダンス）と鑑賞プログラムを登録していて、R6 度は下記 1 校から体験プログラムに応募があり実施することとなった。

文化の心次世代継承事業　https://jisedai.kyotohoop.jp/

【日時】 9 月 12 日（木）、13 日（金）
　　4 年生 4 クラス、各 2 回　（2 クラスずつ、1 回 90 分）
【対象】 亀岡市立つつじが丘小学校　4 年生　121 名
【アーティスト】 合田有紀

＜成果と課題＞

担当教員との事前ヒアリングでは「10 月の運動会にてソーラン節の表現運動に取り組むが、運動会では一人一人が思い切ってしなやかに違いを見せる表現ができたらいいと思っている。ソーラン節を始める前にコンテンポラリーダンスを体験し、身体を動かすことを楽しんでもらってからソーラン節の練習に入りたい」「コンテンポラリーダンスの自由さを感じている。子どもたちが感じるままに表現してほしい」との希望があった。懸念材料として「子どもたちは元気がよく明るいが、まとまりがない。みんなと一緒にやりたくない、という子どもがいることが課題」とのことだった。

残暑厳しい 9 月、扇風機を回しながら 2 日間体育館にて実施。初日、子どもたちはアーティストのファシリテーションに素直に反応し、2 日目には伸び伸びと充実したおどりを見せるようになり、一日でその変化が明らかだった。「みんなと一緒にやりたくない」という子どもは「みんなと同じことをやりたくない」のかもしれない。コンテンポラリーダンスの懐の広さが、子どもたちの多様な「自由さ」を受け入れることができたのだろう。

後日、担当教員から「この事業を実施することができて本当によかったと思う。教師自身が新しい価値観を持つことができ、児童のこれまで見られなかった姿を見ることもできた。運動会本番ではコンテンポラリーとまではいかないが、似たような動きを太鼓の音に合わせて取り入れることができた。伸び伸びと踊る姿に、この事業の成果を大きく感じさせてもらった」とのコメントをいただいた。

■コーディネーター：黒田・神前　　■予算：267,000 円

5．その他、講習・政策提言・アドバイザー等

・2024 度公共ホール現代ダンス活性化事業 コーディネーター（神前・黒田）

神前／6 月：沖縄県浦添市（B）@てだこホール　9 月：三重県津市（A）@久居アルスプラザ

黒田／8 月：茨城県日立市（B）@日立シビックセンター　2 月：鹿児島県与論町（B）@与論町砂美地来館

Ⅱ．会　員　部　門

1．コンテンポラリーダンスに関わる情報の発信

JCDN 会員サービス等

＜JCDN 会員の種類と対象＞

①アクティブ会員（個人/団体/U25）　個人：一口 5,000 円（U25 3,000 円）／団体：一口 10,000 円

対象：JCDN の目的に賛同し、活動を推進することを目指すアーティスト・プロデューサー・評論家・研究者・ライター・スペース・ホール・美術館・企業・財団・自治体・大学・NPO などの個人・団体

※法人格を持たないカンパニー等は個人で入会可。

②サポート会員（個人/団体）　個人：一口 10,000 円／団体：一口 20,000 円

対象：JCDN の事業を賛助・支援する個人・団体

③ダンスコミュニティ会員（個人のみ）　個人：一口 3,000 円

対象：JCDN の活動に共感する個人。ダンスの情報が得られることによって、ダンスを身近なものとし、楽しむための機会を増やします。

＜2024 年度 JCDN 会員数＞　　合計 112 名/組

【現在有効期限会員】　アクティブ個人 59 名、団体 19 組/サポート個人 2 名、団体 1 組/ダンスコミュニティ個人 12 名

【休会会員】（最長 2 年間）　アクティブ個人 5 名、団体 3 組/ダンスコミュニティ個人　2 名

※そのほか、JCDN 役員・スタッフ等（過去も含む）　9 組

アクティブ・サポート・ダンスコミュニティ会員それぞれに、ダンスを社会に広めるための様々な支援サービスを行っています。特に、JCDN アクティブ会員対象のサービスはサポートを充実させています。

	アクティブ	サポート	コミュニティ
JCDN メールマガジンの配信（月 1 回）	○	○	○
JCDN メールマガジンへの投稿（月 1 回）	○	○	
公演・ワークショップ情報の送付（DM）	○	○	○
JCDN 主催事業・関連事業の割引、及び会員主催のダンス公演等の割引	○	○	○
JCDN 総会（年 1 回）への参加資格	○	○	○※議決権なし
主催事業の報告書等の送付	○	○	○
JCDNweb「MEMBERS」ページでの活動紹介★	○	○	
JCDNweb「NEWS」ページでの公演、ワークショップ等の活動情報掲載★	○	○	
サポート会員からの企画や JCDN に対しての提案などを話し合う機会を設ける		○	
DM 同封サービス（無料/年 2-3 回程度/不定期）　★	○	○	
動画配信サイト「DANCE DOOR」へ 2 本/年の無料登録	○		

（★＝詳細は、会員更新・新規申込時にご案内しておりますが、随時、遠慮なくご連絡ください。）

■会員専用メールアドレス：jcdnmembership@yahoo.co.jp　　■担当：黒田